

離島と都市部の中学校体育における動機づけ関連要因の比較検討

藤田勉* 小林稔** 廣瀬勝弘* 具志堅太一**

Comparison Study of Motivation in Physical Education of Junior High School between
Isolated Islands and Urban Areas

FUJITA Tsutomu, KOBAYASHI Minoru, HIROSE Katsushi, GUSHIKEN Taichi

1. はじめに

児童生徒の運動意欲あるいは運動に対する動機づけを理解することは、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する基礎を培う（文部科学省，2008）ための指導を検討して上で意義あることと考える。

本研究は、離島と都市部における中学生の体育授業における動機づけ関連要因を比較することにより、両地域の生徒の違いを検討するものである。長崎県、沖縄県、鹿児島県には多くの離島がある。理論的立場から得られる知見は、経験的に両地域の特徴や違いを把握している経験豊富な教員にとって自らの経験を確認できるものとなり、経験の浅い教員にとっては周囲の経験豊富な教員から提供される情報に加えられる有益な資料になると考える。

藤田・小林（2008）は、MIPE という 7 つの尺度で構成される運動意欲検査を使用し、複式学級と単式学級の児童の運動意欲を比較したところ、両者の運動意欲の高さはほぼ同様であり、学級規模は運動意欲を規定する要因ではないことを示した。しかしながら、運動意欲形成の場が、都市部では体育授業になり、離島・へき地では日常生活の運動参加になることを示唆した。これは地域差があることを示唆しているのではないかと考えられる。

また、藤田・小林（2008）は、MIPE では運動意欲が測定されても、その先行要因及び結果要因については測定できないという問題点を指摘した。これは、運動意欲を高める要因が何であるか、運動意欲を高めることが何に結び付くのかということまでを明らかにすることができないことを意味している。

そこで本研究では、動機づけの先行要因と結果要因が区別されている自己決定理論（Deci & Ryan, 1985, 1991）に基づく動機づけ関連要因（心理的欲求、動機づけ、運動意図）について、離島と都市部の中学生を比較検討することを目的とした。

*鹿児島大学教育学部 **琉球大学教育学部

2. 方法

2-1. 調査方法と対象

本研究は郵送法による質問紙調査法によって行われた。長崎県内の都市部及び離島の中学校に調査を依頼し、協力が得られた都市部の中学校1校及び離島の中学校4校の3年生282名を調査対象とした。

2-2. 調査期間

2008年7月上旬～中旬

2-3. 統計解析

質問紙調査によって得られたデータについて、各尺度の信頼性の検討として内的整合性 (α 係数) を求め、統計量と相関行列を算出した。離島と都市部の各尺度の得点を比較するために、t検定を行った。これらの処理には、SPSS12.0を使用した。また、各尺度の相関係数の差を検定するために、AMOS5.0を使用した。

2-4. 質問項目

心理的欲求を測定する項目

心理的欲求を測定する項目には、自律性への欲求(行動の原因となっている感覚)、有能さへの欲求(運動ができていく感覚)、関係性への欲求(他者との関係が上手くいっている感覚)の3つの下位尺度がある。本研究では、これらのうち、運動に対する内発的動機づけと関連が強いと考えられている、自律性への欲求と有能さへの欲求を測定することとし、それぞれ3問ずつを藤田ほか(2008)を参考にして作成した。各項目への回答方法は、「全く当てはまらない」から「非常によく当てはまる」の7段階による評定尺度法とした。尺度の信頼性の検討として内的整合性を求めたところ、自律性への欲求は、 $\alpha = .82$ (項目例として、「授業では、自分がやりたい課題に取り組んでいる」など)、有能さへの欲求は、 $\alpha = .87$ (項目例として、「技術面に関して、ほとんどのことは器用にこなせる」など)であった。

動機づけを測定する項目

動機づけを測定する項目には、体育授業で運動をする理由をたずねる項目(「私が体育授業で運動をする理由は、～」という質問に続く項目について当てはまる程度を回答する)として、藤田ほか(2008)で使用された尺度から、内発的動機づけと同一化的調整の2つの尺度を使用した。内発的動機づけは行動すること自体を目的としていることから運動継続を促す要因であるとされてきた。また、同一化的調整は行動することを目的獲得のための手段とする外発的動

機づけでありながらも、自律性の程度が高い外発的動機づけとされており (Vallerand, 1997), 運動継続を促す要因であると考えられている。例えば、運動することは健康になるための手段であるが、重要な活動であると考えて運動に取り組んでいることが同一化的調整に相当する。各項目への回答方法は、「全く当てはまらない」から「非常によく当てはまる」の 7 段階による評定尺度法とした。尺度の信頼性の検討として内的整合性を求めたところ、内発的動機づけは、 $\alpha = .83$ (項目例として、「運動をすることでしか経験できない、独自の楽しさを追求したいから」など)、同一化的調整は、 $\alpha = .66$ (項目例として、「健康的な生活を送りたいから」など) であった。

運動意図を測定する項目

体育授業の時間以外にも運動をする意図があるか否かの程度について、「体育授業の時間以外にも、休み時間を使って運動をしようと思う」と「学校が休みの日に自由な時間があれば運動をしようと思う」という 2 問を作成した。各項目への回答方法は、「全く当てはまらない」から「非常によく当てはまる」の 7 段階による評定尺度法とした。尺度の信頼性の検討として内的整合性を求めたところ、 $\alpha = .72$ であった。

3. 結果

3-1. 基本統計量及び相関行列

各尺度の基本統計量と相関行列を表 1 に示した。心理的欲求 (自律性への欲求、有能さへの欲求) と内発的動機づけ及び同一化的調整の相関関係について、心理的欲求は内発的動機づけのみならず、自律性の程度が高い外発的動機づけである同一化的調整にも正の相関が示された。また、運動意図についても、内発的動機づけのみならず、同一化的調整とも正の相関が示された。すなわち、自律性への欲求や有能さへの欲求の得点が高い生徒は、内発的動機づけや同一化的調整の得点も高いこと、内発的動機づけや同一化的調整の得点が高い生徒は運動意図の得点も高いことを意味している。これらの結果は、藤田ほか (2008) と同様の結果であり、さらには、外発的動機づけであっても自律性の程度が高ければ結果要因 (本研究では、運動意図が相当する) と正の関係があるという Vallerand (1997) の仮説を支持するものであった。

3-2. 離島と都市の比較

各尺度得点の比較

離島と都市部の動機づけ関連要因の違いを検討するため、各尺度得点の平均値を t 検定により比較した。その結果、運動意図に有意な差 ($p < .05$) が示され、離島の中学校の方が都市部の中学校よりも運動意図の得点が高かった (表 2)。これは、離島の中学生の方が都市部の中学

生よりも体育授業の時間以外にも自ら積極的に運動に参加しようとする意図があることを意味している。しかしながら、他の動機づけ関連要因には差がなかったことからすれば、両地域の動機づけ関連要因の高さは、全体的にはほぼ同レベルであると考えられる。

尺度間の相関関係の比較

次に、動機づけ関連要因間の相関係数について、離島と都市部の差を検討したところ、有意な差はなかった(表3)。これは、両者の動機づけ関連要因間の関係の強さは変わらないことを意味している。

表1. 基本統計量と相関行列

	平均値	標準偏差	歪度	尖度	1	2	3	4	5
1 自律性への欲求	13.27	3.76	-0.13	-0.31	—				
2 有能さへの欲求	11.51	3.75	-0.08	-0.21	0.80	—			
3 内発的動機づけ	15.54	3.47	-0.68	0.45	0.63	0.53	—		
4 同一化的調整	14.96	3.38	-0.57	0.55	0.51	0.44	0.59	—	
5 運動意図	8.75	3.15	-0.30	-0.54	0.47	0.46	0.56	0.49	—

表2. 各尺度得点についての離島と都市部の比較

	離島			都市部			t	p
	n	平均値	標準偏差	n	平均値	標準偏差		
自律性への欲求	127	13.09	3.64	155	13.41	3.86	0.73	0.47
有能さへの欲求	127	11.69	3.34	155	11.37	4.06	-0.72	0.47
内発的動機づけ	127	15.21	3.52	155	15.81	3.41	1.43	0.15
同一化的調整	127	15.03	3.46	155	14.91	3.33	-0.30	0.76
運動意図	127	9.26	3.05	155	8.33	3.18	-2.49	0.01

表3. 離島と都市部それぞれの相関(ハイフンを境にして、上は離島、下は都市部)

	自律性	有能さ	内発	同一化	意図
自律性	—	0.79	0.62	0.46	0.41
有能さ	0.81	—	0.57	0.44	0.45
内発	0.64	0.52	—	0.61	0.60
同一化	0.55	0.44	0.57	—	0.57
意図	0.53	0.48	0.56	0.44	—

4. 考察

本研究では、長崎県内の離島と都市部の中学生の体育授業における動機づけ関連要因を比較検討した。その結果、運動意図の得点については離島の中学生の方が都市部の中学生よりも高かったことから、体育授業以外の運動参加が積極的であることが示唆された。これは児童の運動意欲を比較した藤田・小林（2008）の研究においても複式学級（離島）の児童の方が単式学級（都市部）の児童よりも学校以外にも運動参加へ積極的であることと類似したものであった。

しかしながら、運動継続を促す要因として考えられている、自律性への欲求、有能さへの欲求、内発的動機づけ、同一化的調整について各尺度の平均値については、離島と都市部の差は示されなかった。これらのことからすると、両者の体育授業における動機づけ関連要因の高さはほぼ同レベルであると考えられる。

次に、各尺度間の相関係数を比較したところ、離島と都市部の差は示されなかった。これは、離島と都市部の中学生の体育授業における動機づけ関連要因の高さや動機づけ関連要因間の関係の強さは変わらないことを意味している。すなわち、離島及び都市部に関わらず、自律性への欲求や有能さへの欲求を高めることが、内発的動機づけや同一化的調整を高め、そのことにより、体育授業以外の運動参加も促されることを示唆していると考えられる。具体的には、生徒が取り組んでみたいと思うような課題を提供してあげることや運動ができていることを実感させてあげる指導を行うことで、自律性の高い動機づけが生まれ、運動を継続しようと思うようになると考えられる。

今後の課題としては、動機づけの不適応な側面についても検討していく必要があると考える。自己決定理論の動機づけ概念には運動継続に対して、内発的動機づけと同一化的調整のような適応的な側面（運動を続けていこうとする動機づけ）のみならず、外的調整や非動機づけのような不適応的な側面（運動を止めようとする動機づけ）もある。全ての種類の動機づけを比較してみることでより有益な情報が提示されようとする。

付記

本研究の趣旨にご賛同し、ご協力下さいました生徒の皆様、各中学校の先生方に深く感謝申し上げます。

文献

- Deci, E.L., & Ryan, R.M. (1985). *Intrinsic motivation and self-determination in human behavior*. New York: Plenum Press.
- Deci, E.L., & Ryan, R.M. (1991). A motivational approach to self: Integration in personality. In R.A. Dienstbier (Ed.), *Nebraska symposium on motivation: Perspectives on*

motivation (Vol.38, pp. 238-288). Lincoln: University of Nebraska.

藤田勉・小林稔 (2008). 複式学級と単式学級における児童の運動意欲の比較検討. 鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要, 特別号 4号, 75-78.

藤田勉・森口哲史・徳田清信・溝田さと子・山下健治・浜田幸史 (2008). 運動参加意図を予測する中学校体育における動機づけモデルの検討. 鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要, 第 18 卷, 21-31.

文部科学省 (2008) 中学校学習指導要領解説 保健体育編 東山書房.

Vallerand, R.J. (1997). Toward a hierarchical model of intrinsic and extrinsic motivation. In M.P. Zanna (Ed.), *Advances in experimental social psychology* (Vol.29, pp-360). New York: Academic Press.